

特別支援学校高等部3年 公民 倫理 高校での「対話的な学び」の実践へ繋げる

『Q～こどものための哲学』の活用

東京都立光明学園 病弱教育部門 主任教諭 川口 尚人

【実践報告の概要】

この番組は活動のパターンが決まっており、毎回同じように活動ができるので、積み重ねることで効果的に深い学びができるようになる。まずテーマに対しての自分の考えを書かせ、番組視聴後、同じ方法で「Qワード」を使って考え、つぶやく。番組のタッチの役を教員が担い、つぶやきを本人と確認しながら板書し、最終的な考えを構築できるようにする。時には最初の自分の考えと同じ場合もあるが、その考えの根拠ができたために自分の考えに自信をもって説明できるようになる。結論の正解がないので教員が明らかに間違った方向にさえもっていかなければ、自然と生徒が一人で考えて結論を出すことができる。

【取組の具体例】高3選択 公民 倫理（2単位）

週1回2時間続きの授業の1時間目をこの活動にあて、2時間目に教科書を進めている。

単元名 ウソつくのは悪いこと？

Qワード：もし～なら、なんで～？

ねらい 番組を視聴してテーマを深く考え、自分の考えを深めることができ、思考を深める楽しさを知る。

1. 本時のテーマを確認し、自分の考えを言う。

「ウソつくのは悪いこと？」

ウソをつくのは悪いと思うけど、時と場合による。

2. 番組視聴 Q～こどものための哲学#17「ウソつくのは悪いこと？」（10分間）

Qワードを意識しながら視聴する。（もし～なら、なんで～？）

3. 番組と同じように「Qワード」を使った教員の質問への考えを言い、思考を深める。答えを記録する。

Q：今までウソをついたことはある？

A：あると思うけど、思い出せない。

Q：ウソをつかれたことは？

A：ある。…（中略）…

4. 最終的な考えを決め、発表する。

Q：ウソをつくのはわるいこと？

A：悪いと思うけど、しょうがない時もある。（いいウソ＝相手を思っただけのウソ）

悪いと思うけど、相手を思って言っているのか、自分のために言っているのかで違う。

5. 授業を振り返り、感想をまとめる。（発表はしない）

最初から順に思考過程を振り返り、最終的な考えを確認する。

そのあと、添付されたワークシートを使って、この時間の授業の感想をまとめる。

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「Q～こどものための哲学」

「Q～こどものための哲学」は、アクティブ・ラーニングに必要な「思考力と対話力」を育むこども向け哲学番組。（番組Webサイト番組紹介参照）日常の中で抱いた疑問を対話しながら深めていき、最終的に納得できる“自分なりの答え”を見つけていく。この対話劇を見ることで、正解のない問いについてどのように考えを深めていけばいいのかが分かる。

○番組を見本にして考えの深め方や自分なりの答えを見つける手順を知ることができる。

○ワークシートが決まった書式で、毎回の授業で積み重ねができる。

○正解のない設問なので、逆に何を言っても間違いではないことで、生徒は自信をもって発言できる。

【本実践における工夫点】

テーマに対しての自分の考えの確認

先に番組を視聴すると、どうしても番組の結論に影響されることから、視聴前に最初の考えを書かせることで、視聴前の自分の考えと視聴後の考えを比較することができるようになった。

「Qワード」の見える化

考える指標として「Qワード」をダウンロードして提示して、みんなが同じ土台で発言ができるようにする。

番組の継続的な視聴

毎回同じパターンで授業を行う中で、番組視聴、「Qワード」からどのように考えを深めていったらよいか、考える方法を身に付けることができる。

【本実践の成果○と課題●】

○番組を視聴して、そのまま実践することで自分の考えを素直に表すことができるようになった。

○番組の雰囲気から自由に発言できる雰囲気を作ることができた。

○生徒一人の授業でも、実態に合わせて教員が質問を続けることで対話的で深い学びを実現できた。

○思考のパターンを習得することで、自分一人で思考を深めていく習慣を身に付けることができた。

●思考方法を汎化していろいろな場面で応用できるようにしていきたい。

